



健康社会学研究会

ニューズレター No.94

発行：健康社会学研究会

事務局：〒157-8565 東京都世田谷区北烏山 8-19-1 日本女子体育大学 助友裕子研究室内

(担当：助友裕子、細川佳能)

TEL/FAX 03-3300-3216 E-mail: healpro.info@gmail.com

ニューズレター NO.94/2021年4月

第129回 定例会報告

テーマ：「支援課題の共有化」に関する概念分析

話題提供者：森川 洋（帝京平成大学現代ライフ学部）

【日 時】：2021年3月27日(土) 17:00~19:00

【方 法】：オンライン会議システム Zoom

令和3年3月27日(土)、第129回定例会(オンライン)を開催しました。

首都圏からに加え、北海道、新潟、群馬、福岡など、17名の皆さんにご参加いただきました。

最初の約15分、アイスブレイクとして chat を通じた Q&A(「Chat de コンニチハ」)を実施しました。「今どこにいますか?」「最近嬉しかったことは?」「この研究会に入ったきっかけは?」など、ファンリテーターの河村洋子委員(産業医科大学)の合図でエンターボタンを押下、Zoomの chat ルームに参加者の回答が流れ込んできました。オンラインでも十分に参加意識を芽生えさせる手法があることに気づかされました。

その後、『支援課題の共有化』に関する概念分析」と題し、森川洋(帝京平成大学)より報告させていただきました。報告の概要は以下の通りです。

○本研究・報告を行う上で、次の2つの問題意識を持っている。

1. 障害がある人の「働く」という考え方が、福祉分野と労働分野・教育分野との間で乖離しているのではないだろうか。

2. 就労移行支援事業所を取り巻く外部(特別支援学校、相談支援事業所、事業主等々:本人が関わる様々な機関)との支援課題の共有化のプロセスを明らかにしていくことが、就労 移行や職場定着への安定化につながるのではないだろうか。

○本研究の全体像は、障害がある人の働くことを支援していく上で、就労移行支援事業における支援課題を共有していくプロセスを明らかにし、その役割について検討することである。

○これらの全体像のうち本報告では、「支援課題の共有化」に関する概念分析を行った。

○本報告の目的は、Walker &Avant(2005)の概念分析の手法を活用し、サービス管理責任者の「支援課題の共有化」概念の構成を明らかにすることである。

○本報告での概念分析の手順は以下の通り。

1. 「支援課題の共有化」概念について発見したすべての用法を明らかにする。

2. 「支援課題の共有化」概念の属性を明らかにする。

3. サービス管理責任者の「支援課題の共有化」概念の定義づける。

4. サービス管理責任者の「支援課題の共有化」のモデル例と相反事例を作成する。

5. サービス管理責任者の「支援課題の共有化」の先行要件と帰結を示す。

○「支援課題の共有化」概念の構成は次の通り。

【先行要件】

- 支援の切れ目の存在
- 関係者間、関係機関間、領域間等での障害がある人の働くことに関する捉え方の違い
- 狭義の健康観を踏まえた疾病性の視点を念頭に置いた本人理解

【属性】

- 二者間でのレベルと三者以上に渡るシステムでのレベルのものがある。
- 各々の役割(時には負担)や予測される成果が共有される。
- 新たな社会資源を創造させることへの働きかけが行われる。
- 双方向性を基本とするが、教育的機能が働くこともある。
- 社会レベルと個人レベルの価値観を土台とする。
- 結果に向かうプロセスである。

【帰結】

- 障害がある人が自らの健康を獲得していくプロセスの構築
- 障害がある人が働くということにおける選択肢の獲得
- 障害がある人の働くとは何かということに関わる領域、機関、人との間で共有
- 価値観や視点、考え方が異なる領域、機関、人をつなぐ仕組みづくり

○これらの「支援課題の共有化」に関する概念構成を踏まえて、今後、障害がある人の働くことを支援する人たちへのインタビューを実施する予定。

○ただし、「先行要件」と「帰結」について、先行研究との関連性が不十分な部分もあるため、①海外の文献も対象に検討し、②類似の概念(コーディネーション、協働…)も含めた概念分析を行い、③類似の概念を通して、障害者雇用、障害がある人の就労支援、職業リハビリテーション領域の先行研究も検討材料にしていきたい。

○また質疑応答を通じ、働くことの支援課題は、9時5時の世界では完結しないこと、9時5時以外の世界にも働くことを支援するための課題があること、これらの支援課題を共有していくプロセスにも焦点をあてていきたい。

以上、本報告の概要です。報告の後、オンライン懇親会を開催、4人一組10分ごとのローテーションのもと、参加者同士の交流の機会を持ちました

本研究会にとって、オンライン定例会は初めての試みでしたが、アイスブレイクや懇親会など、円滑な進行の下、滞りなく実施することができたように思います。また全国各地から参加していただけたこともオンライン開催の強みであることを実感しました。令和3年度もしばらくオンライン開催になると思いますが、引き続き健康社会学研究会をよろしくお願いいたします。(文責:森川洋)

事務局からの連絡

《新入会員紹介(敬称略)》

赤岩 友紀(群馬県下仁田町役場)・金田 恵(神奈川県平塚市役所)・鈴木 茜(国際医療福祉大学大学院)

《ご住所、所属先の変更》

研究会への登録情報に変更された場合は事務局までご連絡ください。ご協力お願いいたします。

★定例会報告者の募集(随時受け付け)★

学会報告や論文の投稿を考えている方、学位論文作成中の方、現場での実践活動を共有したい方など、定例会で報告してみませんか? 仮テーマ、発表のご希望時期を事務局へお知らせください。